

1.3.3.2 町並み形成と個店の改修

■店舗ファサード

ワークショップの中で、具体的な業平の店舗の事例を取上げ、改修の例を検討した。複数のアイデアを適用し、現在の店舗を少し手を加えるだけでも街の雰囲気が大きく変わることが見て取れる。



現状：(業平1丁目) 浅草通り北側



STEP1: 店舗部分の壁面と暖簾を修景した案



STEP2: 2階以上の色調も統一感を出した案



STEP3: 街路樹に高木を案

業平1丁目北側の改修案。壁面の色調を統一し、藍色の暖簾を各店舗にかけた例。店先に植栽やベンチを置き、歩道には大きな街路樹を付けた。



個店ファサードの改修イメージ

業平地区デザインコード（案）

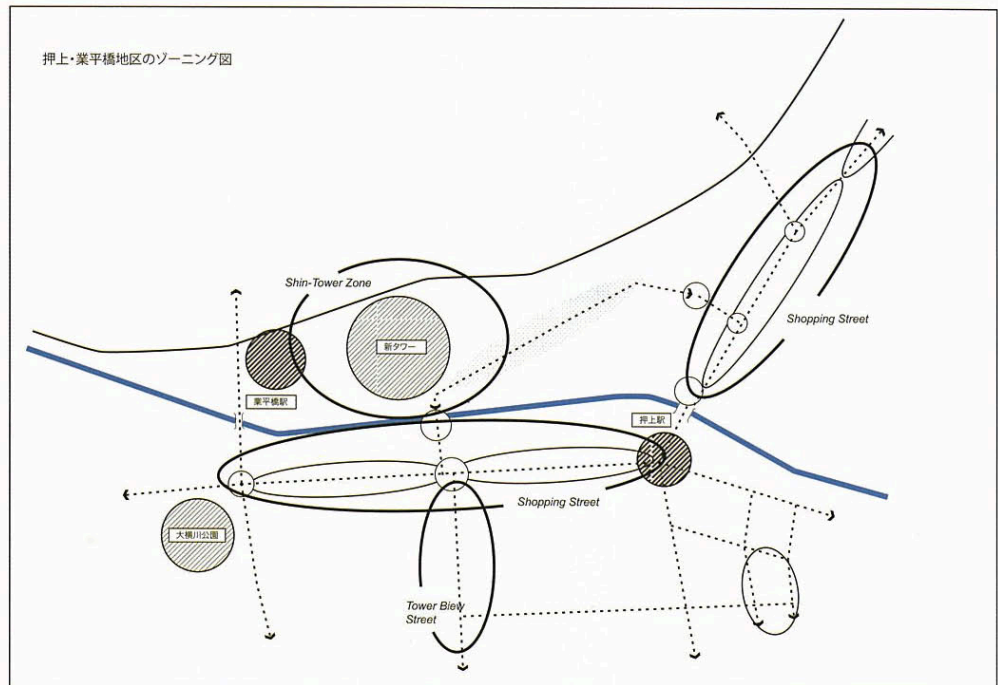
※ a,b: 建築と都市を繋ぐスケールによるグルーピング

a. 都市

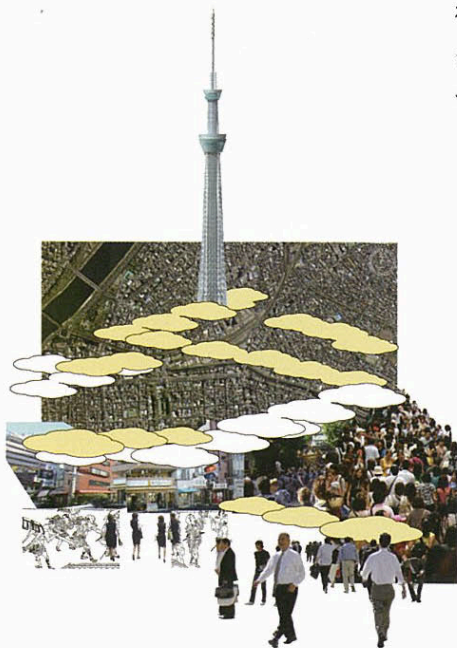
- 1** 新タワーと下町の回遊路・業平
- 2** 水辺との近接性
- 3** プロムナード
- 4** 賑わいの街路
- 5** ギャラリー・ストリート

b. 建築

- 6** ひと休みできる店先
- 7** 連続する正面
- 8** 通りと会話する窓
- 9** 通りに開く店舗
- 10** お客を迎え入れる庇
- 11** 建物を活かす看板
- 12** 伝統的な材料
- 13** 大地から生まれた色合い（アースカラー）
- 14** 店先から漏れる明かり
- 15** 公開工房・公開厨房
（オープンファクトリー・オープンキッチン）
- 16** 身近な緑



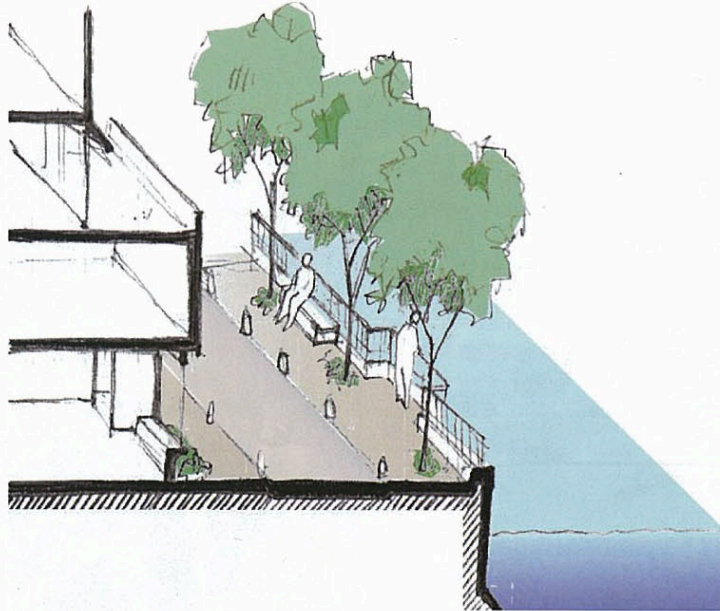
平成 23 年の新タワー竣工によって、業平の街は大きく変わる。業務人口や観光客の大幅な増加が予想される。それらの人々は、新タワーをきっかけとして業平の街にやって来るが、新タワーの人工的な環境の中だけでの滞在では、街としての楽しさを味わってはもらえない。新タワーから街に出て、街歩きを楽しんでもらえるような、下町ならではのおもてなしを、街全体で発信していく。



2

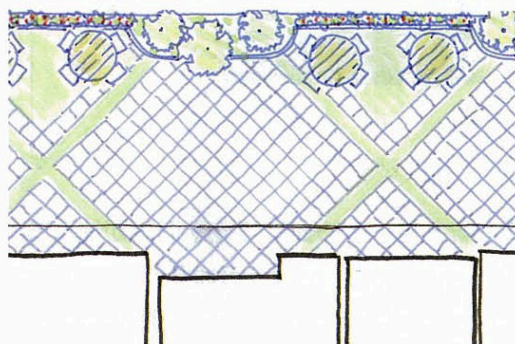
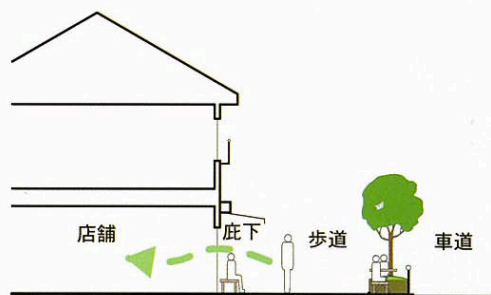
a. 都市

水辺との近接性



商店街と新タワーとの間には北十間川が流れる。新タワー着工前の現段階では、裏通りとしての性格しかない北十間川沿いだが、開発後は水辺の親水空間として、人々が集う場となることが期待される。川沿いと商店街通りの近接性を保つため、水辺と商店街とを一体的な考え方のもとに、回遊に導く。





商店街の歩道は、そぞろ歩きを楽しめるようなものにする。通りを単なる通路ではなく、人々が集う広場のような性格を持たせるために、通りに面する建物が、様々なもてなしを歩行者に投げかける。

4

a. 都市
賑わいの街路

通り沿いのオープンカフェや、中の賑わいが感じられるような飲食店があると、通りに賑わいが生まれる。また、店先のワゴン販売などでお客さんと店員の会話など、通りから見える場所に、人々の会話が溢れるような仕組みを散りばめる。